

定期接種対象外の年齢小児（15歳未満）へのワクチン接種

日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会

2015年11月作成

2016年9月改訂

定期接種は、接種対象となる年齢の範囲が政令で定められていますが、基礎疾患の有無などの状況により、定期接種の対象年齢以外でも接種を奨めた方が良いワクチンがあります。

以下に、**定期接種の対象となる年齢の範囲以外**であっても、接種が奨められるワクチンについての、推奨の対象と接種回数を示します。

なお、各ワクチンともに、接種不適当者に該当する者は対象から除きます。

また、健康保険適用に関しては、別途記載します。

※ 長期にわたり療養を必要とする疾病にかかった者（定期接種実施要領 10 頁 19.(2) <http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000128710.pdf>) であって、定期接種の期間中に予防接種を受けることができなかつたと認められる者については、その事情がなくなった日から起算して2年を経過する日までの間は定期接種として受けることができますのでご確認ください。

対象となるワクチン

	ワクチン名	定期接種対象 年齢	定期接種対象 年齢以外での 接種可能年齢	接種適応外 の年齢	推奨接種対象者と接種回数
定期 接 種	乾燥ヘモフィルス b型ワクチン (Hib ワクチン)	2か月以上 5歳未満	5歳以上	2か月未満	<u>推奨接種対象者</u> 5歳以上の脾機能不全・補体欠損症・HIV感染症・骨髄移植後でHibワクチン未接種者 <u>接種回数</u> 1回接種。
	沈降13価肺炎球菌 結合型ワクチン (PCV13)	2か月以上 5歳未満	5歳	2か月未満 6歳以上*	<u>推奨接種対象者</u> 5歳以上の肺炎球菌感染症ハイリスク患者(☆)でPCV13未接種者 ☆慢性心疾患(チアノーゼ性心疾患、慢性心不全)・慢性肺疾患(高用量

				<p>の経口ステロイド投与を受けている気管支喘息含む)、糖尿病、髄液漏、人工内耳、鎌状赤血球症などの異常ヘモグロビン症、脾機能低下症、HIV感染症、慢性腎不全、ネフローゼ症候群、免疫抑制療法や放射線治療を受けている者（悪性腫瘍性疾患、白血病、リンパ腫、固形腫瘍）、原発性免疫不全症</p> <p><u>接種回数</u></p> <p>PCV13 を 1 回接種後 8 週間以上あけて 23 価肺炎球菌莢膜多糖体ワクチン（PPSV23）接種。 5 年後に PPSV23 追加接種を検討。</p> <p>註 1：PPSV23 既接種者の場合には、最後の PPSV23 接種後 12 か月以上あけて PCV13 接種。PPSV23 については最後の PPSV 接種から 5 年以上経過していれば再接種可能。</p> <p>註 2：5 歳児に対する PCV13 接種は任意接種となるが、状況により特例措置により定期接種として接種することが可能。</p>
沈降精製百日せき ジフテリア破傷風 不活化ポリオ混合 ワクチン (DPT-IPV)	3 か月以上 90 か月未満	90 か月以上 15 歳未満	3 か月未満 15 歳以上	<p><u>推奨接種対象者</u></p> <p>90 か月以上の全ての小児。</p> <p><u>接種回数</u></p> <p>DPT-IPV 初回免疫+追加免疫を完了していない者は、合計で 4 回接種。</p>
不活化ポリオ ワクチン (IPV)	3 か月以上 90 か月未満	90 か月以上	3 か月未満	<p><u>推奨接種対象者</u></p> <p>90 か月以上の全ての小児。 (DPT 初回免疫+追加免疫を完了している者)</p> <p><u>接種回数</u></p> <p>① 生ポリオワクチン未接種者 IPV を生後 3 か月以降に合計で 4 回接種</p> <p>② 生ポリオワクチン 1 回接種済者 IPV3 回接種</p>

				③ 生ポリオワクチン 2 回接種済者 IPV 接種必要なし
沈降 DT トキソイド (DT)	11 歳以上 13 歳未満 (第 2 期) 3 か月以上 90 か月未満 (第 1 期)	90 か月以上 11 歳未満 13 歳以上	3 か月未満	<u>推奨接種対象者</u> 13 歳以上で DT 未接種の全ての小児。 <u>接種回数</u> 2 期接種として 1 回。
BCG ワクチン	1 歳未満 (5~8 か月が 標準接種推奨 月齢)	1 歳以上	なし	<u>推奨接種対象者</u> 1 歳以上 4 歳未満で BCG ワクチン未接種の全ての小児。 <u>接種回数</u> 1 回接種。 註 1 : 前もってツベルクリン反応を実施するかどうかは個々の症例で 判断する
乾燥細胞培養 日本脳炎ワクチン	第 1 期 : 6 か月以上 90 か月未満 第 2 期 : 9 歳以上 13 歳未満 * 特例対象者 (1995 年 4 月 2 日~2007 年 4 月 1 日生ま れの人) は、 20 歳未満であ	第 1 期 : 90 か月 以上 (特例対象者 を除く)	6 か月未満 **	<u>推奨接種対象者</u> 定期接種の年齢をこえた全ての小児。 <u>接種回数</u> 合計で 4 回接種。

		<p>れば、4回の接種を定期接種として受けることが可能。</p> <p>(2007年4月2日から2009年10月1日に生まれの人)で2000年3月31日までに第1期が終了していない場合は、生後6か月から90か月未満または9歳以上13歳未満に定期接種として受けることが可能。</p>			
<p>乾燥弱毒生 麻しん風しん 混合ワクチン (MR)</p>	<p>第1期： 12か月以上 24か月未満 第2期： 5歳以上7歳未満で小学校就学前1年間</p>	<p>12か月未満 24か月以上 小学校就学1年間以上前の者 6歳で小学校就学後の者 7歳以上</p>	<p>6か月未満 **</p>	<p><u>推奨接種対象者</u> 定期接種の年齢をこえた全ての麻疹・風疹未罹患小児。 <u>接種回数</u> 合計で2回接種。 註1：1歳未満で、麻疹流行により麻しんワクチンの緊急接種を1回受けた者も、1歳以降にMRワクチン2回接種。</p>	

乾燥弱毒生麻疹ワクチン	第1期： 12か月以上 24か月未満 第2期： 5歳以上7歳未満で小学校就学前1年間	12か月未満 24か月以上小学校就学1年間以上前の者 6歳で小学校就学後の者 7歳以上	6か月未満 **	<u>推奨接種対象者</u> 定期接種の年齢をこえた全ての麻疹罹患済、麻疹未罹患小児。 <u>接種回数</u> 合計で2回接種。 註1：1歳未満で、麻疹流行により麻疹ワクチンの緊急接種を1回受けた者は、1歳以降に、MRワクチンを2回接種。
乾燥弱毒生風疹ワクチン	第1期： 12か月以上 24か月未満 第2期： 5歳以上7歳未満で小学校就学前1年間	24か月以上小学校就学1年間以上前の者 6歳で小学校就学後の者 7歳以上	12か月未満	<u>推奨接種対象者</u> 定期接種の年齢をこえた全ての麻疹罹患済、風疹未罹患小児。 <u>接種回数</u> 合計で2回接種。 註1：1歳未満で、麻疹流行により麻疹ワクチンの緊急接種を1回受けた者は、1歳以降に、MRワクチンを2回接種。
乾燥弱毒生水痘ワクチン	12か月以上 36か月未満	36か月以上	12か月未満	<u>推奨接種対象者</u> 3歳以上の全ての水痘未罹患小児。 <u>接種回数</u> 合計で2回接種。
B型肝炎ワクチン	12か月未満	12か月以上	なし	<u>推奨接種対象者</u> 全てのHBVワクチン未接種の小児。 <u>接種回数</u> 3回接種。 註1： 10歳未満1回0.25mL皮下注射 10歳以上1回0.5mL皮下または筋肉内注射

*添付文書上の年齢に関する標記は「小児（2か月以上6歳未満の間にある者）・高齢者（65歳以上の者）」

**添付文書上は記載なし

健康保険適用のあるワクチン

1. B型肝炎ワクチン

- ① 血友病患者に「B型肝炎の予防」の目的で使用した場合
- ② 「HBs 抗原陽性でかつ HBe 抗原陽性の血液による汚染事故後の B型肝炎発症予防（抗 HBs 人免疫グロブリンとの併用）」の目的で使用した場合
 - 1) 当該負傷を原因として HBs 抗原陽性でかつ HBe 抗原陽性血液による汚染を受けたことが明らかで、洗浄、消毒、縫合等の処置とともに抗 HBs 人免疫グロブリンの注射に加え、本剤の接種が行われた場合
 - 2) 既存の負傷に HBs 抗原陽性でかつ HBe 抗原陽性血液が付着し汚染を受けたことが明らかで、上記 1 と同様の処置が行われた場合
(業務上：労災保険 業務外：健康保険等)
- ③ 「B型肝炎ウイルス母子感染の予防（抗 HBs 人免疫グロブリンとの併用）」の目的で使用した場合
 - 1) HBs 抗原陽性の妊婦から出生した乳児に対する抗 HBs 人免疫グロブリン投与及び B型肝炎ワクチン接種